

平成 17 年 12 月 9 日

保育園で不審者対応訓練が行なわれました

～ 区保育士の不審者への対応力を検証 ～

本日 9 日、10 時 15 分頃から区立雑司が谷保育園（雑司が谷 1-34-5）において、不審者への対応訓練が行なわれた。これは保育園内に不審者が侵入し、子ども連れ出そうとする設定で行なわれたもので、区の危機管理担当課職員が不審者に扮し園児に近づき、保育士の不審者に対する対応を検証し、問題点の洗い出しが行なわれた。

近年、子どもをターゲットにした犯罪が全国で多発、最近も各地で連れ去りや殺傷等の痛ましい事件が相次いでいる。豊島区内においても、露出など不審者等に対する情報が寄せられるなか、区では子ども達の安心・安全を確保するため、区内全小中学校の児童や生徒、教職員への防犯ブザーの配布のほか、緊急通報システムの設置や校門の施錠、受付窓口での確認強化、区内の全小中学校・幼稚園に対する「さすまた」の配備、民間警備会社等のボランティアによる地域パトロールや、保護者等に対する携帯メール送信による不審者情報等の提供など、多岐にわたる対策を講じてきた。

また、こうした仕組みづくりの充実に加え、非常事態時に、子ども達を預かる現場がどこまで有効に対応できるのかというソフト面についても、区内の各小中学校・保育園・幼稚園を対象に、防犯訓練や研修を実施するなど、職員の対応能力の向上を図ってきた。本で行なわれた訓練は、これまで行ってきた取り組みが有効に機能するの点という点を検証するとともに、対応の問題点の洗い出しを行なう目的で行なわれた。

ベースボールキャップにサングラス姿で不審者に扮した職員が園庭に侵入、子ども達に人気のキャラクターのおもちゃを手に、子ども達へ声をかけ始めると、園長や研修担当等の職員を除いて訓練を知らされていなかったにもかかわらず、保育士たちは各自連携して、不審者役の職員を毅然かつ冷静な態度で門外へ誘導、子ども達を避難させ、暗号メッセージによる園内放送を行なうなど、緊迫した空気のなか訓練が行なわれた。

訓練後、区の危機管理課担当課長が、「知らない人にはついていかない（いか）、他人の車にのらない（の）、おおごえを出す（お）、すぐ逃げる（す）、何かあったらすぐ知らせる（し）」という「**いかのおすし**」という合言葉を「5つの約束」として子ども達に分かりやすく説明した。同保育園では、日頃から子ども達に「知らない人から物をもらっちゃだめ」と教えているが、訓練では、不審者から逃げたり隠れたりしている子ども達が多かったものの、なかには魅力的なおもちゃに惹かれ、不審者に近づいてしまう子どもの姿もあり、訓練後、保育士たちは「知らない人からは物をもらっちゃだめだよ」と繰り返し言い聞かせていた。「**いかのおすし**」の約束は、保護者の方へのお願いとしてプリント配布された。

危機管理担当課では、本日の訓練を「思っていた以上の対応だった。不審者に対しても、いたずらに声を荒げることなく非常に冷静な対応が出来ており、職員同士の連携も上手くいっていた。これまでの訓練や保育園内での打合せ等の成果だと思う」と評価。「引き続き、知らない人から安易に物をもらわないなどの注意点を、子ども達に教えていく事が大切」と、今後の課題を総括した。

対応した保育士のひとは「とにかく不審者から子ども達を引き離すことを最優先に考えて行動しました。あらかじめ、園内で非常時の暗号放送や、職員間でのブロックサインを決めてあったので、連携した対応がとれました。」と語ってくれた。

詳細:危機管理担当課長